

平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」における全茎収穫を可能とする収穫後のジベレリン処理技術（追補）		
[要約] リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」の全茎収穫後の越冬芽（切株）にジベレリン 100ppm 液を株当たり 5～10mL 散布することで翌年の開花日が慣行より 1～2 半旬程度前進するが、その効果は処理翌年のみとなる。ジベレリン連年処理による切り花本数の減少は見られない。					
キーワード	リンドウ	極早生品種	ジベレリン	技術部 野菜花き研究室	

1 背景とねらい

リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」の全茎収穫後の越冬芽にジベレリンを処理し、新たに株養成茎を伸長させることで持続的に収量向上を図る技術を開発し平成 28 年度試験研究成果として公表したところである。

その際の副次的効果である開花期の前進が安定的な新盆需要期出荷を可能にするとして注目されていることから、開花前進効果について確認し、需要期出荷の安定化を図る。

また、処理効果の持続性および連年使用による効果も明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 極早生品種「いわて夢あおい」の全茎収穫後の越冬芽（切株）にジベレリン 100ppm 液を株当たり 5～10mL 散布することにより、翌年の開花日が慣行より 1～2 半旬程度前進する（表 1、図 1）。
- (2) 全茎収穫後のジベレリン処理による開花日前進効果は処理翌年のみとなる（表 2－③、図 2）。
- (3) 「いわて夢あおい」への全茎収穫後のジベレリン連年処理による切り花本数の減少は見られない（表 2－①）。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 処理後に伸長した茎は葉枯病等の病害が発生しやすい傾向があるため防除を徹底する。
- (2) 凍霜害による欠株を防ぐため、クラウン部が露出しないよう土寄せ（芽土）を行う。
- (3) その他の留意事項については平成 28 年度研究成果（7 参考資料(2)）を参照のこと。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県南部、営農指導者（農業普及員等）
- (2) 期待する活用効果 「いわて夢あおい」の需要期出荷の安定化が図られる

5 当該事項に係る試験研究課題

- (H22-7) 県育成極早生品種の株養成技術の開発 [H22-29/県単]
- (2000) 県育成極早生品種の株養成技術の開発

6 研究担当者

輪達公重

7 参考資料・文献

- (1) 平成 25～27 年度 春夏作野菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験成績集録
- (2) 平成 28 年度試験研究成果(指導)「リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」における全茎収穫を可能とする収穫後のジベレリン処理技術」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 H28開花日と切り花本数(いわて夢あおい 3年生)

試験区	開花日	切り花 本数(注) (本/株)	うち規格内 本数 (本/株)
7/7処理	6/23 (-10)	7.8	7.2
7/15処理	6/24 (-9)	8.2	7.1
8/3処理	6/27 (-6)	7.6	4.3
慣行	7/3	5.0	4.7

※ジベレリン処理量:10ml (処理はいずれもH27年)

※開花日:開花盛期(50%開花日)、括弧内は慣行との差

(注)切り花本数:慣行区は養成茎3本を残して収穫した本数

表2 H29開花日と切り花本数(いわて夢あおい 4年生)

試験区	ジベレリン処理		H29 開花日	切り花 本数(注) (本/株)	うち規格内 本数 (本/株)
	H27	H28			
① 連年処理	有(7/7)	有(7/11)	7/3 (-4)	5.7	5.6
② 前年処理	無	有(7/26)	6/28 (-9)	6.6	5.2
③ 前々年処理	有(7/7)	無	7/7 (0)	4.1	4.0
④ 慣行	慣行	慣行	7/7	3.0	2.8

※ジベレリン処理量 H27:10mL H28:5mL 括弧内は処理日

※開花日:開花盛期(50%開花日)、括弧内は慣行との差

(注)切り花本数:慣行区は養成茎3本を残して収穫した本数

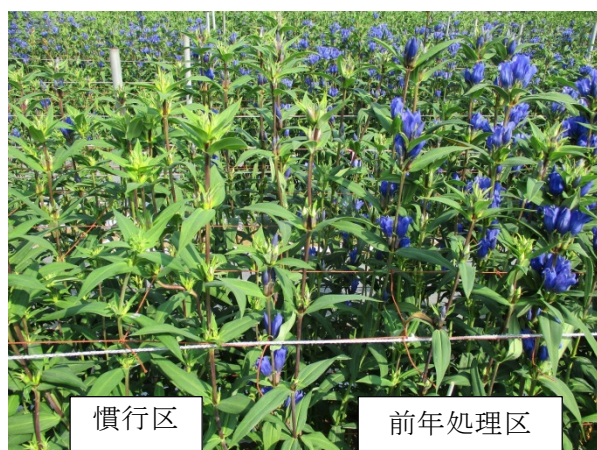


図1 慣行区および前年処理区の開花状況 (H29. 6. 28)



図2 前々年処理区の開花状況 (H29. 6. 28)